

活動の概要

’04年11月25日に六甲アイランドで開催された第4回障害者芸術・文化祭で障害者の授産施設に当社の阿部パティシエが製菓の技術指導を行なったことがきっかけで、社会貢献活動への取り組みを始めました。当ホテルのシニアディレクターがまとめ役となり、協力する内容によりプロジェクトチームを編成することになっています。

神戸市を中心に広く県内で活動していますが、特に’08年に開催された第25回全国菓子博覧会では、自然を中心とした体験型の学びの場である県立山の学校で収穫された栗を使い、当社阿部パティシエが考案した焼き菓子を障害者の授産施設に技術供与して出品。産学官が一体となり製作した菓子が大好評を博しました。

また、’09年10月には、県の「ザ・わかもの座談会」(*注1)の一環として、神戸山手短期大学が提唱するウエディングで神戸を元気にするプロジェクト（日本版ブライダルシャワーの提案(*注2)）に協力しました。学生のデザインによる、県内で収穫された材料を使う“地産池消”のスイーツを阿部パティシエが監修製作し、発表の場（「ザ・わかもの座談会－実践編」結（ゆい）の会）で、県内のブライダル関係者などに提供しました。

成果

当初は、ホテルの特性（調理、サービスなど）を実演をとおして見ていただくことを主眼としていましたが、プロジェクトのメンバーとして参加させていただくようになってからは、相互理解が深まり、当事者のみならず当社以外の関係企業等の参画を得ることができたりと、周囲への影響が大きくなったと思います。

神戸山手短期大学の提案によるスイーツを当ホテルで商品化し、販売しようとする計画も進んでおり、産学協働の取り組みの成果の一つです。

課題

いろいろなご提案をいただいても、仮に“我が社大事”“利益第一”といった姿勢では、真実を見失い、本当にお互いが望む活動が実現できない場合があるのではないかと考えて降ります。この理念を守り通すことが、当社の課題であるといえます。

夢・抱負、今後の推進方向

阿部パティシエに代表されるように、当社の財産は人であると思っています。社内を見ても、素晴らしい技術あるいは才能を持った社員が大勢います。そして、多彩の才能もを持った人材が集まることにより相乗効果を生みます。

その人達の持てる技術・才能を相手方が必要とされるものに対応させるか、それを考え実行するのがシニアディレクターの役目であると考えています。

団体名：株式会社 ホテルプラザ神戸

氏名：シニアディレクター 野本哲平

事務所の所在地：〒658-0032 神戸市東灘区向洋町 2-9-1

電話：078-846-5440 FAX：078-846-5410

E-mail：nomoto@hotelplazakobe.co.jp

ホームページ：http://www.hotelplazakobe.co.jp/

ノウハウ・コツ

私心なかりしか

私たちホテルは、お客さまを持てなすという「ホスピタリティ」が信条です。この精神は、さまざまな地域貢献活動に関わらせていただくに当たっても忘れてはならない、心構えかと思えます。私心があったり、見返りを目論むような活動を行ってはいけない、これが当社のノウハウ・コツといえるでしょうか。

ホテルプラザ神戸を会場に開催された「ザ・わかもの座談会－実践編」結の会
(若者グループによる各取り組みの発表会)



神戸服装専門学校¹の学生は、自分たちでデザイン・製作したウエディングドレスを提供し、公募カップルに人前結婚式をあげてもらおうという企画をたて、実践しました。



神戸山手短期大学の学生がデザインし、ホテルプラザ神戸の阿部パティシエに監修製作してもらったスイーツ

ひとことメッセージ

ホテル側としては、当初、活動の受け入れという点での関わりとなるため、目に見える成果としては表し難い面がありますが、例えば、県立山の学校の生徒さんの人に対する思い遣りを発見（手作りの木工作品を頂戴した）したり、授産施設で働く方の純粋な心に触れたり、逆に我々が教えられることが多くありました。

(*注1) ザ・わかもの座談会

これまで地域づくり活動にかかわりを持つことが少なかった若い世代に、活動が身近なものと感じてもらおうため、企業・団体等と連携し、地域づくり活動を企画・実践するものです。

(*注2) ブライダルシャワー

日本ではまだ根付いていない欧米の習慣である「ブライダルシャワー」（花嫁のための結婚前祝いパーティ）を、同大学ブライダルゼミの学生が、次代の花嫁の視点から日本流にアレンジし、兵庫県²の文化や景色・特産品（フルーツ・栗・黒豆等）をスイーツに取り込みながら、新しいタイプのウエディングとして美演形式・会場参加型で提案

活動の概要

兵庫県内14 J Aと兵庫信連で構成する J Aバンク兵庫では、地域に根ざす金融機関として、「J Aバンク兵庫の地域貢献事業」を展開しており、県内の小学生等を対象とした環境保全・食農・金融経済教育事業に取り組んでいます。特に、環境保全活動に焦点を当て、次世代を担う子どもたちが環境保全の大切さを学ぶ活動に対する支援を行うとともに、その活動を通じて感じた環境保全の大切さを、子どもたちの言葉でこの兵庫県から発信してほしいとの思いから、「小学生の環境チャレンジ発表大会」を開催しています。

活動名	実施内容	平成21年度の状況
小学生の環境保全教育 環境保全教育 応援事業	環境保全活動に取り組んでいる小学校に対し活動助成金や教材を贈呈。環境活動に取り組む小学生が活動成果の発表等を通して、情報発信を行うとともに相互の交流を深めることを目的として「小学生の環境チャレンジ発表大会」実施します。	平成21年度は250校に助成金・教材を贈呈。発表大会には、この中から積極的にユニークな取り組みを実施している7校が参加しました。
都市部と農村部の小学生 交流会	都市部の小学生を農村部へ招き、収穫体験や環境活動を行うとともに、農村部の小学生との交流会を通して、地域ごとの自然や暮らしの多様性を学んでもらうことを目的に実施します。	芦屋市立浜風小学校4年生らが茨粟市の J Aハリマを訪れ、収穫体験を行うとともに、茨粟市立神戸小学校の児童と交流を図りました。
J Aバンク 兵庫の金融 教室	小学生に「お金」に関する基本的なことがらを学ぶ機会を提供することで、無駄遣いをせず計画的にお金を使うことの大切さや貯蓄することの大切さを理解してもらうことを目的として実施します。	第1回目：平成21年9月1日 (西紀小学校で実施) 第2回目：平成21年11月12日 (船津小学校で実施)

課題

小学生の環境保全教育応援事業において、各校から応募いただいた環境保全活動の内容や活動を通じた子どもたちの声（感じたこと）を広く県内の小学校へ還元する等により、更に積極的な活動、広がりのある活動につながるよう取り組んでいく必要があると考えています。

夢・抱負・今後の推進方向

小学生が環境保全の重要さを学ぶだけでなく、活動を地域に発信することにより、J Aバンクを含む地域ぐるみの活動につながるよう、更に取り組みを展開していかなければならないと考えています。

団体名：兵庫県信用農業協同組合連合会（J Aバンク兵庫/兵庫信連）

氏名：総合企画部

事務所の所在地：神戸市中央区海岸通1番地

電話：078-333-5751 **FAX：**078-333-5765

ホームページ：<http://www.jahs.or.jp>

ノウハウ・コツ

県内 14 の JA と兵庫信連の連携できめ細かな活動

JAバンク兵庫では、子どもたちを対象とした環境保全・食農・金融経済教育支援の取組みを基本としていますが、県内 14 JA と兵庫信連が連携することにより、県内の幅広いエリアにおいて、それぞれの地域の特色を生かす形で活動を展開し、また、他の地域との交流や情報交換も可能となっています。



小学生の環境保全教育応援事業



都市部と農村部の小学生交流会



JAバンク兵庫の金融教室

ひとことメッセージ

JAバンク兵庫では、県内各地で地域の皆様と一緒に、環境保全と子どもたちの健全な育成に向けた活動に取り組んでいきますので、積極的に参加してください。

大人も子どもも楽しく！！
「いい加減」になりがちなところも、「良い加減に」に替えて地道にコツコツ！

活動の概要

子どもたちが自由にのびのびと遊べる場づくりと震災後の更地の有効利用をしたいと平成 11 年 12 月に発足しました。メンバーは、学生、社会人、主婦など立場も世代も違う 20 人です。

西宮市久保町国有地プレーパークでの常設プレーパーク（毎週末、毎月 1 回よちよちプレパ・放課後プレパ）や、市外県外を問わず依頼があれば出向く出前プレーパーク（市内各地、神戸市、大阪市、豊中市、長野県、京都府など）、その他子育てほっとカフェや講演会に講師やリーダーを派遣するなど、さまざまな世代や団体にアプローチする活動をしています。そして子育て講座やワークショップを開発実施し、子どもにとっての「あそび」の重要性を社会に伝えようとしています。

これまでに連携した団体は、兵庫県や西宮市などの行政、子ども会、PTA、青少年愛護協議会、地区社会福祉協議会、自治会、などの地域団体、子ども家庭支援センターなどの機関、子育てネットワーク西宮、市内の発達障害など障害を持つ親の会「ゆうきっこクラブ」、(特)日本災害救援ボランティアネットワーク、その他子育て支援団体や他府県のプレーパーク団体などです。



成果

親たちが子どもの遊びの大切さに気づきました。

子どもだけでなく、大人だけでも来ることができる大人にとっての居場所に、また、障害のある無しにかかわらず、だれもがリラックスできる場所になりました。

課題

活動資金の確保と、発足して 10 年たち、学生時に関わり始めたリーダーも 30 歳近くになり、若いリーダーの養成が必要です。

夢・抱負・今後の推進方向

みんなが自分らしく生きられる社会、大人が目線を中心につくるのではなく、子どもの目線を大切にする社会に。そして、大人も子どもも楽しい、いつ行っても空いている居場所づくりがしたいと思っています。

団体名： にしのみや遊び場つくろう会

氏名：米山清美

事務所の所在地：西宮市鞍掛町 3-15

電話：0798-22-9525

FAX：0798-22-9525

E-mail：yoneyama0725@iris.eonet.ne.jp

ホームページ：http://play-park.hp.infoseek.co.jp

⑧組織運営

多世代がフラットな関係で運営

代表だからとか年長だからというのではなく、目的を同じくする者がともに活動していくという意識をいつも持っていることが重要です。それには価値観の違う者、特に老いも若きもいる多世代であることが大切です。メンバーのだれもが自分の意見を言い、他の意見を聞くという姿勢を忘れないことがポイントです。

⑥ネットワークづくり

地域で顔を売る

子ども会活動や学校の行事などに、プレーリーダーたちも地域の大人として積極的に関わり、顔を売るようにしています。そうすることで活動日以外に地元であったときにも声をかけられる関係になり、子どもにとっても大人にとってもより身近な存在になります。

③活動場所

常設活動場所の獲得

当会の場合、国有地を使用しています。一NPOが使用できないため、県が国と契約してくれています。県の補助事業を実施することでこのような使用ができ、ありがたいと思っています。国道43号沿いの緑地ですが、「この場所を地域のために、特に子どもたちにのこしてほしい」との地域の思いが増えればよいと思っています。だれもが使えることがより望ましいと思っています。

⑦行政の活用

行政とは常に対等なパートナーシップで

行政にやってもらうのではなく、フラットな関係で、行政にできないことをするのが当会の役割だと思っています。



子育て座談会でのワークショップ



ひとことメッセージ

兵庫県測量協会、コープ神戸「虹の賞」、'07年度兵庫県子育て支援元気アップ賞受賞、'07年度阪神南地域づくり応援事業グランプリなどを受賞しました。多世代での地域に根ざした活動と、ノーマライゼーションな居場所づくりが評価されたのでしょうか。今後も地道な活動をしていきたいと思っています。

活動の概要

若者や子ども達が将来の社会において重要な役割を担うことを信じて、活動の目的として次の使命を掲げています。

○子ども達が多様な価値に触れ、選択肢を広げる機会の提供

○若者に対し、多様な価値を創造していくための機会と基盤の提供

阪神・淡路大震災で被災した子ども達の支援を契機に、大学生による学生主体のNPO法人として青少年に関する事業を中心に展開しています。

○児童等を対象にしたキャンプ事業、不登校児童等への支援活動

○高校生等を対象にした国際ワークキャンプ事業、児童等への学習支援事業

成果

被災児童に対する学習支援活動から当会はスタートしました。その後、レクリエーション活動や、不登校児道の支援、高校生等を対象とした国際ワークキャンプ事業など、子ども達や社会の流れから必要とされるさまざまな事業を展開してきています。

今では、年間 12,000 人以上の子どもや若者が当会の事業に参加しています。

活動の主体は当初から学生ですが、今では年間に600名以上の学生がボランティアとして様々な活動に主体的に関わっており、たくさんの学びを得て社会に巣立っています。



課題

キャンプ事業など、対価を伴う事業が中心になった結果、所得の低い家庭の子ども達へのアプローチがしにくくなっています。そのため、2009年から貧困家庭の子どもへの教育支援を行う新たな事業を展開して、あらゆる子ども達へのアプローチを試みています。



夢・抱負・今後の推進方向

○限られた子ども達から全ての子どもへ

現在、当会が関わっている子ども達は、社会全体からするとほんのわずかです。今後は、特別な事情を抱える子ども達を含めたすべての子ども達へのアプローチをしていきたいと考えています。

○障害をもった子ども達への支援

「限られた子ども達から全ての子どもへ」の一環として、様々な障害をもつ子どもを対象とする事業を進めていきたい。しかし、当会ではそのノウハウがあまりないためそういった領域で既に取り組んでいる団体との協働で事業を行いたいと考えています。

団体名：特定非営利活動法人ブレインヒューマニティー

氏名：理事長 能島 裕介 担当：事務局次長 阪上 荘平

事務所の所在地：〒662-0832 西宮市甲風園 1-3-12 カミヤビル 3階

電話：0798-63-4441 FAX：0798-63-5551

E-mail：info@brainhumanity.or.jp

ホームページ：http://www.brainhumanity.or.jp/

ノウハウ・コツ

①人材養成

役職が人を育てる

当会は、大学生ボランティアが活動の中心です。時間はそれなりにありますが、社会人としての能力はまだまだこれからのボランティアがほとんどです。

しかしながら、大学生は最長でも4年間しかおらず、メンバーの交代は避けられず、人材の育成は常に必要です。そのために、ひとつひとつの事業の実行責任者や、多岐にわたる事業を管理する事業部局の代表に学生自らが就くことにしています。

最初はまだまだな者でも、役職を得ることで様々なことを経験し、成長することができ、4年後には見違えるような成長を遂げている学生ボランティアがたくさんいます。

それを繰り返し行うことで、活動者が変わっていても、人材の質は大きく変わらない体制を作り出すことができています。

③活動場所

スタッフ数は活動場所の立地条件次第

当会は、大学生ボランティアが活動の中心のため、阪神間の学生にとって利用しやすい阪急の西宮北口駅から徒歩数分の所に位置しています。そうすることで、大学からあまり時間をかけることなく学生は事務所に來ることができ、活動に多くの時間を割くことができます。

事務所は、単に事務を行う場所ではなく、活動の中心拠点です。人が集い、話し合い、作業ができる空間が必要です。当会も、前身団体の時はメンバーの部屋が事務所でしたが、活動とメンバーが増えるにつれて、事務所を持つ必要が出て來ました。

継続的にメンバーを確保していきたいと考えるのであれば、専用の事務所でなくても、行きやすい所に拠点があることが重要です。



事務所風景

⑤広報・情報共有

インターネットとプレスをフル活用

子ども向けのキャンプや高校生対象の国際ワークキャンプを実施していますが、よりたくさんの保護者や若者に活動の内容を知ってもらうには、インターネットの活用は非常に重要です。当会では、団体のホームページはもちろん、各事業のブログもあり、各事業の最新の情報をそこで知ってもらうことができます。

また、新聞に取り上げられることで知名度が上がっています。新聞が掲載されるには、社会的価値のある事業をこまめに情報提供していくことが、結局は近道になります。

ひとつことメッセージ

当会は、学生が活動の中心となる団体ですが、設立当初から学生を中心に活動を続けることができてきているのは、学生達を活動を担う従事者であり、同時にその活動を通して自分たちのニーズをかなえたいと願っている第二の顧客であると捉え、学生達のニーズも考えながら活動している点にあると考えています。

これは、学生のみならず、ボランティアが関わっている団体すべてにあてはまることだと思えます。

ボランティア達の自己満足のためだけに活動することは決してすべきではありませんが、同時にボランティアの思いや願いを無視しては活動が成り立たないと考えています。

地域ぐるみで誕生時から子育てを見守る温かいまちづくり

活動の概要

伊丹市の鈴原小学校区は、高齢化率が市内で最も高い、少子高齢化の顕著な地域です。伊丹市民生委員児童委員連合会では市から委託を受け、民生委員児童委員が生後4カ月以内の赤ちゃんのいる家庭を訪問し、子育て支援に関する情報の提供、養育環境の把握、支援が必要な家庭へのアドバイス等をする「こんにちは赤ちゃん事業」を行っています。

同連合会の鈴原小学校区では、同事業の一環として、訪問先の個人情報を守り、市に代わってお祝い品を持参し、簡単なアンケートに答えてもらうことに加えて、赤ちゃんの親の了解が得られれば、同区で発行する「自治会だより」に赤ちゃんの写真を掲載しています。若い世代の世帯では、地域とのつながりがほとんどなく、地域の情報が届いていない場合が多いので、「こんにちは赤ちゃん事業」は、自治会とつながる貴重なきっかけになっています。

その他、独居高齢者に①月2回昼食会を開催する「ふれあい給食サービス」 独居高齢者や障害者への②災害時の声かけなどの援護 ③平時の安否確認などをする「ほのぼのネットワーク」 ④校区の祭りやイベントへの参加を呼びかけ などもしています。

成果

「自治会だより」にかわいい赤ちゃんの写真が掲載されることで、住民の意識が子育てを応援するまちにしようという方向に自然と向かっています。

今までに掲載を拒否された世帯はなく、自治会員の増員につながりました。

課題

個人情報の保護のため、委員同士は訪問対象案件の内容を互いに知り得ないので、メンバー同士で活動上の相談ができない場合があります。

夢・抱負・今後の推進方向

地域ぐるみで子育てを温かく見守る、よい環境のまちづくりが夢です。

少子高齢化の進んだ地域なので、自治会と民生委員児童委員が連携を強化して、子育て中のお母さん、高齢者、障害のある人に孤立感、孤独感を感じさせない地域にしたい。そのためにも、小さな地域ごとに、子育て中のお母さん、高齢者、障害のある人、民生委員児童委員、保健所の職員、住民が集う場を持ちたい。

団体名：伊丹市民生委員児童委員連合会－鈴原小学校区

氏名：民生委員 渡邊はるみ

事務所の所在地：伊丹市鈴原町7-14-4

電話：072-773-2825 FAX：072-773-2825

⑧組織運営

熱心さと連携が必要

地域での福祉活動は、自治会長、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会のすべてにやる気があって、それらの連携がしっかりしていないと、うまく立ち上がりません。「こんにちは赤ちゃん事業」も然(しか)りです。

しかし、うまく軌道に乗れば、事業の範疇を超えた大きな成果を地域にもたらすこととなります。

⑨活動の展開

ルールや役割分担を明確にする

当連合会では、自治会と協議して「自治会だより」に赤ちゃんの写真を載せたいと考えたときに、市に掲載してよいかどうかを尋ね、親の了解があった場合は構わないことを確認しました。

市は、各世帯に民生委員児童委員が「こんにちは赤ちゃん事業」のために訪問することを、委員の電話連絡先も含めて事前に知らせます。

民生委員児童委員は赤ちゃんのいる世帯を訪問し、「こんにちは赤ちゃん事業」をひととおり行ったうえで、「自治会だより」のバックナンバーを提示しながら説明し、掲載の了解をとります。

民生委員児童委員から連絡を受けた「自治会だより」の担当者(自治会)は、赤ちゃんのいる世帯にすぐに取材に行くようにしています。

赤ちゃんのいる世帯に不信感を与えないように、また、事業が円滑にできるように、事業関係者すべての間で、進め方のルールや役割分担を明確にしています。

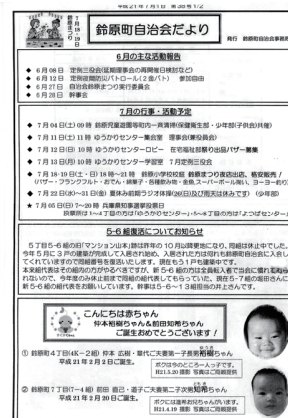
⑥ネットワークづくり

次のステップにつなげる

「こんにちは赤ちゃん事業」がきっかけとなって、若いお母さんたちとコミュニケーションをとれるようになり、地域の民生委員児童委員が子育て相談にものることを伝え、この地域で暮らすことに安心感をもってもらえるようになりました。また、お母さんたちが、子どものための遊び場や公園、病院など地域の情報を知らない場合も多々あるので、それらの情報を伝え、喜ばれています。



赤ちゃん事業訪問写真



鈴原町自治会だより

ひとことメッセージ

赤ちゃん誕生という明るいニュースを自治会員に届け、赤ちゃんを地域の宝物として、心温まる活動を展開していきたいと思っています。

食を通して親子のふれあいづくり

活動の概要

食の外部化・分業化等食環境が大きく変化している昨今、「家庭の味」が少なくなっているように思います。未来のある子どもたちが健やかに成長するために、生活の原点である「食の大切さ」を幼い頃から体験してほしいと思っていました。そのようなとき、平成14年度の新学習指導要領で「子どもたちと地域社会のつながり」が求められ、少しでも役に立てればと4名の栄養士が地域に根ざした活動すべく「食を考える会・へるすイート」を立ち上げました。幼児期からの食育・共同作業でのふれあい・他校生との交流を主な活動としています。

現在は、コミュニティセンターでの子ども料理教室(4回シリーズ1カ所・5回シリーズ1カ所)、夏休み中の親子料理教室(2カ所)等を実施しています。当初は4名だったスタッフも現在8名となりました。

成果

当初は、子ども料理教室として市内2カ所のコミュニティセンターで実施していましたが、7年経過した現在は市内5カ所のコミュニティセンターで実施できる運びとなりました。

3年前より親子料理教室も実施し、親子で協同作業をする中でふれあいや話題提供ができたと自負しています。



親子で巻きずし作り

課題

既存の施設を使って実習をするので、事故のないよう実施すること。そのためには、子ども専用の調理器具や補助器具が必要となり、その資金確保が課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

これからの子育て世代に「食の大切さ」「食事の楽しさ」「一緒に作る喜び」「栄養・食品に関する正しい知識と選択の目」を養える場を提供していきます。

「素材からの食事作り」を親子で経験し、我が家の味をつなげていけるようにサポートします。地産地消を考えながら、高齢化社会の現在、病態別の食事作りもニーズが高いので、専門性を生かし、地域に根ざした食育を進めていきたい。



団体名：食を考える会 へるすイート

氏名：三浦 美千子

事務所の所在地：明石市大久保町高丘6丁目12-5

電話：078-935-8757 FAX：078-935-8757

E-mail：m.michiko@kkf.biglobe.ne.jp

ノウハウ・コツ

①人材養成

メンバーを適材適所に配置する

これまでの経験を生かし、地域活動栄養士として活動しているスタッフが最大限に得意分野を生かせるよう、役割分担をしています。

学校教育、集団給食、健康教育、医療分野と活動している栄養士が、経験を元に指導案を作成しています。正・副2名（子どもの教室では4名）体制で関わり、先輩たちの指導テクニックを体得できるように組み合わせています。

③活動場所

地域のコミュニティーセンターでの活動

地域活動栄養士としてコミセン事業に参加させていただいた経験があり、また、コミセンは近所の子どもたちが気軽に集まれる場所でもあります。これらの理由から、「まず地元のコミセンから」を念頭に活動を始めました。

少しずつ活動範囲を広めるために、次年度には活動主旨を文書化し、市内のコミュニティーセンターへ働きかけ、子ども料理教室・親子料理教室を開催できるようになりました。

⑥ネットワークづくり

分野にこだわらず交流を

メンバーが他のサークルやふれあいサロン、地域の世代交流の会等に積極的に参加しています。ふれあいサロンでのお茶菓子の作成とミニ講話、子育てサークルでの簡単ヘルシーお菓子作りの紹介や栄養相談などに参加し、顔の見える形でいろいろな人とふれあっています。

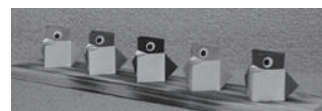
そうすることで徐々に認知度が高まり、口コミで食育のことなら「へるすイート」へと代表者の方々から声をかけていただいています。



ひとつことメッセージ

子ども料理教室に参加した子どもたちが「家で作ってみたよ」「来年もありますか」「今度はこんなメニューがいい」などと声をかけてくれるとき、また、保護者の方が「今度も参加します」と声をかけていただいた時は、やってよかったと思える瞬間です。親子料理では、家族全員で参加される人もあり、ふれあいのお手伝いのできたと自負しています。

子どもたちは五感で自然（海の生き物）を体感



折り紙ペンギン

活動の概要

わわれわれの住む東播磨地区の海岸線は、昔から白砂青松で名高い景勝の地でしたが、今や臨海工業地帯となり、人々が海に近寄れない状況で子どもたちも大自然に学ぶことすらできない環境です。そこで少しでも子どもたちに自然を体感してもらい、自然環境と命の大切さを知ってもらうため、前日に取れた高砂沖の生きた魚介類（タツノオトシゴ、アナゴ、タコ、カニ、ヒトデ等）を持って、保育園、幼稚園、小学校へ出向く出前水族館事業を行なっています。

また、海で聞こえる波の音、船の汽笛、クジラの鳴き声等を聴かせたり、貝殻を使って楽器を作る「音遊び」、海の生き物等を下絵のないところから子どもたちの希望に応じて切り出す「切り絵」、こいのぼり(5月)、カエル等(6月)など、季節と年齢に合わせた「折り紙」の活動も出前水族館事業とセットで実施しています。

現在、東播磨地域を中心に年間 20～30 カ所に出前事業に行っています。

メンバーの多くは高砂市の高齢者大学である松陽学園の出身者や在学生なので、同学園の在校生を通じて多くの情報や協力を得ています。また、NPO 法人高砂キッズスペースの活動にも参加しています。

成果

NHK、毎日、関西、読売の各テレビで活動の様子が特集を組むなどして放送されたこともあり、高砂市の保育所、幼稚園、小学校などから、最近ではたつの市や姫路市など市外からも出前水族館の依頼があります。市内の保育所からは毎年来てほしいとの要望がありますが、予約が多くて回りきれず、2年に1回出向くことで了承してもらっています。

子どもたちは、水族館（タッチプール）で今までにほとんど見たこともない生きた魚介類に手で触れ、感激して大はしゃぎしています。

課題

沖の魚介類は自然のモノで、予定された日に天候の都合で沖に出ることができない時があるので、水槽で常に最低限の魚介類を飼っておかなくてはならず、季節ごとの水温調整や衛生管理などに手間と気がいる。

夢・抱負・今後の推進方向

高砂漁業組合や兵庫県に協力をお願いして、現在使用していない組合施設に大きな水槽を設置し、いつでも季節の魚を確保し、高砂から県下一円に出前水族館を行えたらと思っています。



タッチプール
(アナゴをさわる)

団体名：播磨マリンクルー

氏名：(代表者) 吉政 静夫

事務所の所在地：高砂市荒井町中新町8-13

電話：079-443-7263

FAX：079-443-7273

E-mail：Kid09701@bb.banban.jp

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開

4つの活動を体験するコース設定



タッチプールでは一度に魚などに触れられる人数が30名位までなので、1園(1校)100名以上だと子どもたちに待ち時間ができてしまいます。その待ち時間をなくすため、出前水族館(タツノオトシゴの出産の映像などの魚のビデオも放映)、音遊び、切り絵、折り紙の4つの担当グループをつくり、毎回4グループ1セットで出かけています。子どもたちは1時間半~2時間で4つのパートを順番に回るコースとなるので、飽きずに楽しめます。活動内容は、最初は出前水族館のみでしたが、おもしろそうな内容を探して、1つずつ増やしてきました。



切り絵 (高砂沖に棲む魚)



出前風景

⑨活動の展開

企業の協賛を得る

メンバーのユニホーム、「マリンクルー出前授業 きて、みて、さわって海の生き物」等の看板、展示用パネル等に地元の金融機関である播州信用金庫の名前を入れることで同金庫から年間広告料を得ています。これは団体から播州信用金庫へ協賛のお願いに行き、成立したものです。

広告料の支出だけでなく、毎回、同団体の活動時には、播州信用金庫からの申し出で2人の社員が手伝いにきてくれます。このことで企業側に活動をより理解してもらえます。

④活動資源

活動の支援者へのアピールは実際に活動を見ていただく

出前水族館を実施するためには、生きた魚を漁師さんから提供してもらわなければなりません。そこで、漁師さんに幼稚園と一緒にってもらい、活動の様子を実際に見ていただきました。そうすることで「子どもが喜ぶ顔を見たら、やめられない」と快く協力いただいています。

ひとことメッセージ

メンバーは60代、70代の高齢者ですが、子どもの喜ぶ声を聞くと元気になります。また、みんなでワイワイと好きなことをしていると年もとりません。

リーダーは、常にみんなのことを考えて一生懸命汗を流すことが大切です。

「商店街の寺子屋」
地域ぐるみで子どもに体験学習を！

活動の概要

小野商店街で商売されていた表具店から寄贈された建物を改築し、小野市は平成 20 年 11 月にコミュニティセンターおのの分館「よって吉蔵」をオープンさせました。ここを活動拠点として、市民、大学生らをメンバーとする「商店街の寺子屋実行委員会」が、地域の人に学習アドバイザーとして参画してもらい、小野地区の小学生を対象に、学び、遊ぶ、小野版子ども放課後教室「商店街の寺子屋」を月曜日～金曜日（午後 3 時 30 分～6 時）に開講しています。

現在、学習アドバイザーとして「おの地域通貨かもん」、「ココロン小野クラブ」、「小野ボランティアグループ連絡会」、「兵庫教育大学ネイチャーサークル」、「昔遊び体験隊」、「更生保護女性会」などの団体が 1 カ月のカリキュラムを構成し、剣玉、お手玉、茶道、折り紙、編物、絵手紙、紙すき体験など多彩なプログラムを展開しています。また、もちつき大会やお別れフェスティバルを開催して、担当曜日を越えて寺子屋の子どもたちとアドバイザーの交流をはかるようにしています。

このような「あそび」を通して、友達と相談し、協力することを学び、子どもたちを地域の中でこころ豊かで健やかに育てる環境づくりの一役が担えたらと思っています。



お箏



収穫祭（掘った任でポテトチップスづくり）

成果

当初、事業に関わってくれる学習アドバイザー（ボランティア）が見つかるか不安でしたが、小野市社会福祉協議会の協力もあり、各団体が曜日を担当する形で始めました。

今年度から市内の高校にも呼びかけ、地域貢献活動（部活動）の一環として小野高校の生徒に参画してもらっています。また、コミセンおののサークルの方で興味を持たれた方にも参画してもらうなど、少しずつですが協力の輪は広がってきています。



どっこいおの踊り

課題

小野商店街との連携がまだ薄く、どういう形で巻き込んでいくか、また、現在、小野地区だけの活動となっていますが、地区外からの参加希望者もあり、他の地区ではどのように運営していくかが課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

協力者の数を増やし、いろいろな人と子どもたちが関わる場をつくっていき、特に商店街の方々の知恵と経験を生かしたプログラムを展開していきたいと思えます。

また、小野地区だけでなく、小野市全地域にこの活動が広がってほしいです。

団体名：「商店街の寺子屋」実行委員会

氏名：中塚（コミュニティセンターおの）、宮脇（「商店街の寺子屋」コーディネーター）

事務所の所在地：小野市王子町 8 0 6 - 1

電話： 0 7 9 4 - 6 3 - 1 0 2 0 FAX： 0 7 9 4 - 6 3 - 1 1 3 8

E-mail：cc-ono@city.ono.hyogo.jp

ノウハウ・コツ

①人材養成

若い世代は子どもたちの講師に適任

大学生や新たに平成 21 年度からは高校生にも先生役としての参画してもらいましたが、若い力は本当に必要です。

当会のコーディネーターが、高校生に先生役として参画してもらいたいと考え、地元の小野高校へ直接お願いに行き実現しました。教頭先生が窓口となっただき、地域貢献活動の一環として部活動単位で派遣するなら可能だということで、生物部、E S S 部、有志合唱団、将棋部、吹奏楽部が来てくれました。

お兄さんお姉さんたちが来ると子どもたちのはしゃぎようも違います。大学生の担当曜日だけ参加している元気いっぱいの子どものももあります。若い世代には、ぜひこれからも積極的に参画してほしいと思います。



左：講師は
高校の将棋部
右：講師は大学生

⑥ネットワークづくり

あらゆるネットワークを生かして講師をスカウト

当会のコーディネーターが、様々なところで出会った人や、他のつながりで知り得た人で講師に来てほしいと思った人には積極的に声をかけ、講師に呼び込んでいます。また、「コミュニティセンターおの」にはいろいろなサークルや講座があるので、その方々も「商店街の寺子屋」の講師に誘っています。そのようなことを積み重ねてネットワークが広がっていきます。

教室も同じことばかりでは飽きてしまうので、毎月のカリキュラムはマンネリ化しないように配慮しています。茶道や箏は子どもたちに人気がありますが、紙漉(かみすき)なども含め、日頃見慣れないもの、家や学校ではなかなか体験できないことを企画し、ボランティアとして多くの人が関わり、多様な分野の学びの機会になるよう努めています。

⑨活動の展開

習ったことを地域に還元する機会を確保

子どもたちは、習うばかりでなく、習ったことを披露する機会を確保しています。披露の場は、小野地区地域づくり協議会等と連携を図り、地域が企画する「お月見コンサート」や「陣屋まつり」などのイベント時にお茶のお点前や箏の演奏を披露する形で参加するようにしています。

子どもたちが習ったことを社会に還元するとともに、多くの地域の人に「商店街の寺子屋」の活動に関心をもってもらうことができます。

ひとことメッセージ

子どもは家庭と学校の中だけで育つわけではありません。地域の様々な人と関わり合い、支えられ、見守られながら成長していきます。地域の大人一人ひとりが子どもたちの模範となる大人であったり、親しみのある知人として接し、少子化や核家族化が進む今こそ、家庭・学校・地域が力を合わせて、地域社会全体で子どもたちの育成に取り組む必要があります。

「商店街の寺子屋」はそれにぴったりの活動です。この取り組みが小野市全地区に広がり、子どもたちの笑顔あふれる町にしたいと考えます。

活動の概要

地元の菅生小学校の校長より「学校完全週5日制の実施にともない、土・日曜日に子どもたちに普段得られない自然体験やいろいろな経験をさせながら地域で育ててもらいたい」との話があり、高齢者らの体験や知識を生かして、小学生の健全育成に役立ちたいと、地域の熟年高齢者たちが集まって平成15年4月に同会を設立しました。

子どもたちと一緒に親も含め三世代交流で、伝統文化や農作業、自然観察など体験活動をし、子どもたちが「生きる力」や郷土愛、家族愛を培うことを目的としています。

組織は本部役員10名、支部役員8名、推進員24名で構成し、小学校区域で活動しています。

- 主な活動は、①伝統文化の学習（竹・わら細工、餅つき大会、おはぎづくりなど料理教室）
 ②栽培体験学習（田植えから脱穀まで米づくり、さつまいも栽培）
 ③自然体験学習（里山ウォッチング、ひまわり写生会）
 ④スポーツ交流学習（校区の老人クラブと連携したグランドゴルフなど）などです。

成果

地域の熟年・高齢者が行うボランティア活動では、常に地域の三世代が一緒に楽しみ、子どもたちの健全育成に役立つとともに、地域の連帯感が醸成され、団体間の結束が強まりました。また、高齢者にとっては、生きがいくりと健康維持に役立っています。



課題

菅生小学校の児童数は約400名。保護者を含めると約800名が参加対象者だが、過去6年間における1回当たりの参加人数は1～2割（平均126名）にとどまるので、今後はさらに魅力ある事業を計画し、参加者を増やしたい。



夢・抱負・今後の推進方向

子どもたちが安全・安心に、みんなで仲よく・楽しく、心身ともに健全に育つために、地域の住民が温かく見守り、日常生活において、行いの善悪を教えたり、あいさつをかわすことが自然にできる親しみのある地域社会の実現をめざしたい。

幼稚園児の水田での泥んこ遊びや幼児親子のさつまいも掘りなど、他の機関から協力要請があるので、会の中で話し合っただけでできるだけ応えられるよう幅広い活動を展開していきたい。



団体名：菅生校区あおぞら会

氏名：(会長) 永安 力

事務所の所在地：姫路市夢前町菅生潤1459

電話：079-335-2305 FAX：079-335-2305

ノウハウ・コツ

⑧組織運営

役員と推進員の連携

小学校区を4分割し、各区域から役員・推進員を選出し、区域ごとに定員を維持しながら、事業での役割を分担しています。役員が事前に計画や準備をして、推進員は主に当日のお手伝いという形をとっています。

例えば、竹細工やわら細工では、責任者が事前にサンプルを作成して、当日それを提示しながら説明し、役員・推進員の指導の下でできるだけ親子で作業してもらいます。役員と推進員が上手に連携をとりながら、参加者がケガをしないように注意を払い、午前中に仕上がるようにしています。

③活動場所

地域の特徴を生かして活動場所を選択

通常は、参加者の集まりやすい場所として小学校の体育館や家庭科室・多目的ルームを借りていますが、自然に恵まれた校区の特徴を生かし、ふるさとや自然に親しみを持つような場所での活動を取り入れています。

県立ゆめさきの森公園や地元の神社での樹木の観察や木登り、学校周辺で借り上げた圃場での芋掘り活動など、活動に変化をもたせ、活動への興味を高める効果も考慮して活動場所を選定しています。自然の中の方が子どもたちも生きいきとしています。

⑥ネットワークづくり

分野や地域にこだわらずに交流を

「あすの兵庫を創る生活運動協議会」や「あしたの日本を創る協会」に所属し、「こころ豊かな美しい中播磨推進会議」や生活学校などに参加し、交流を深めています。このように分野や地域にこだわらずに諸団体と交流し、活動情報の収集に努めています。昨今の子どもの特徴や地域課題、地区内で実施されている他の活動を知り、よいところを取り入れることができます。

また、地域内においては小学校、幼稚園、公民館や老人クラブ、社会福祉協議会などと連携しながら地域に根ざした活動を心がけています。

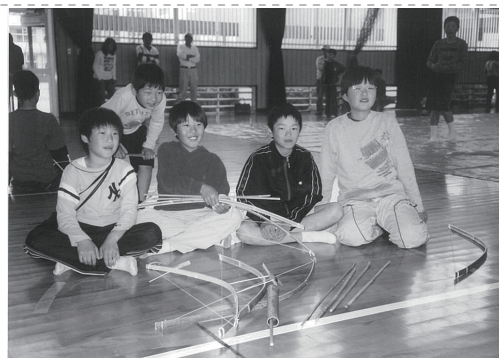
⑨活動の展開

主体的で自分たちが楽しめる活動が長続きの秘訣

学校から依頼のあった米づくりを毎年実施していますが、このような受け身の活動だけでなく、自分たちで主体的に計画実施をする主催事業を年4回実施しています。このことが会員の「生きがい」や「やりがい」につながっています。

子どもを楽しませるだけでなく、自発的に活動することによって自分たちも楽しむことが長続きの秘訣です。

また、活動メニューは、前回と同じものではなく、少し変化をつけながら、子どもたちの興味に合うものを小学校の先生の意見を採り入れながら企画しています。



子どもが主役のまちづくり

活動の概要

青山地区近辺で起きた青少年による野宿者火炎瓶殺人事件が契機となって、民生委員・児童委員や地域に関心のあるボランティアなどが、住み慣れた地域を「安全・安心で活力ある街にしたい」と、平成18年6月に当会を立ち上げました。

主な活動としては、地区の住民を対象とした親子で参加できるイベントの実施や子育て・福祉マップの作成、ふれあいサロンの手伝いなどがあります。



ジュニアボランティアと福祉施設訪問



親子でクラフトづくり

成果

活動を推進していく中で、活動の内容が地縁団体にも認められ、有志が集まって作った任意団体でありながら、地縁団体と同じように扱ってもらえます。地域で行事を行う際には、地縁団体のバックアップがとても重要となりますが、その協力体制が整いつつあります。

課題

活動に対して、なかなか住民の理解が得られないというのが課題です。すぐには無理かもしれませんが、広報誌を作って活動の内容を回覧したり、自治会放送で行事の広報をしたりしながら、活動の透明化を図り、少しずつでも理解を得ていきたいです。



親子なかよしひろば

夢・抱負・今後の推進方向

子育て中の親子が気軽に集うことができ、子どもたちにとっても“こころの居場所”となる、そんな活動場所にしたい。また、全住民が会員になり、みんなの手で“だれもが住みやすいまちづくり”を実現したい。

団体名：青山1000人会

氏名：岸岡 孝昭

事務所の所在地：姫路市青山南3丁目12-15

電話：079-266-3529 FAX：079-266-3529

E-mail：kishioka@hera.eonet.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

人材リストの作成（継続的な関わりを）

外部講師は、これまでの活動の中で知り得た人の中から団体の活動を理解してくださる方をお願いしています。あえて外部の人をお願いすることで活動を客観的にみることができ、また、まちづくり、防災など専門とする分野ごとに継続的に関わってもらうことができます。

また、仲間のネットワークも活用し、協力者リストを作成し、情報提供をするなど講師等とは継続的に連携をとるようにしています。

①人材養成

専門家のアドバイザーを置く

何でも相談でき、活動全般についてアドバイスをもらうため、大学の先生にアドバイザーに就いてもらっています。地域課題解決のために有効であり、また、若い世代に説得力があります。

また、イベントなどに先生のゼミ生などの協力を得ることが期待できます。



⑧組織運営

来るものは拒まず、去る者は追わず

行事を行う時など、20人ほどのボランティアに協力してもらっています。

かつて個性豊かなボランティアの人に活動をかき回されたこともありますが、信念を持って活動を続けていると、居心地が悪いと自覚され、脱退されました。無理せず緩やかに協力者を募り、「来るものは拒まず。去る者は追わず」の気持ちでボランティアと向き合うことです。

⑨活動の展開

アンケートの活用

常にニーズに応じた活動を心がけており、ワークショップでの意見やアンケートを分析し、地域課題をふまえて課題解決に向けた活動を推進しています。自治会を通じて全戸配布したり、幼稚園、小学校を通じてアンケートを実施しています。

調査結果は、メンバーに配布して地域課題の共有ができるだけでなく、関係者を説得させるための貴重な資料となります。

ひとことメッセージ

- 地域特性を生かすには、他地域のコピーでなく、独自性を持った事業が大切
- 地縁組織のリーダーとは連絡を密にし、情報を共有すること
- 助成金は、数多く出せば当たるのではなく、何のために活動するのか、ポリシーをもって当たればいい結果が生まれる
- 無関心から関心を示してもらえよう、住民に繰り返し広報することが必要
- ボランティアが燃え尽き症候群にならないように、課題・思いなどを共有することを心がける

活動の概要

豊かな自然と歴史的遺産を数多く持つ出石。子どもを在宅で育てているお母さんが参加する親子教室などは与えられたカリキュラムのところしかなく、自分たちで考えてする活動ではないので合わないと感じていました。地域の自然や文化・芸術に触れながら子どもに普段できないような体験をさせたい、子どもに寄り添いながら豊かな感性を育みたい、親子で取り組む魅力的な活動をしたい、という自主的な発想で当会は平成18年6月に発足しました。

アイデアを出し、手を加えて、同一のものではなく、一人ひとりが自由に制作することを基本にしています。初年度は「町の顔探し」として、町のあちらこちらに出かけ、いろいろな“顔に見えるもの”を見つけて写真に撮りました。また、地元野菜や花を思うままに土鍋に生ける「創作鍋」では個性豊かな鍋芸術ができました。次年度以降も出石を流れる谷山川付近の森で「妖怪探し」をしたり、出石永楽館復活の際には伊藤清永美術館のギャラリー近くの窓に“ステンドグラス風の大きな絵”を描いたり、と親子で取り組み、印象に残る楽しいものとなりました。

現在、メンバーは13組の親子になります。

成果

当初は、芸術大学の講師の指導を受け、活動のヒントをもらって取り組む形でしたが、今では自分たちでテーマを決めて活動しています。メンバーがいろいろな知恵を出し合うことで知識や考え方が広がり、活動に広がりが出てきました。参加者も増えてきました。

課題

子どもがいると時間が自由にならないので、いつどのよう活動するのか工夫が必要。核家族が増えた今の時代に子育てすることの難しさを感じながら迷い悩むお母さんは多い。子供たちに伝えていかなければならないことを見つけていく場にしたい。

夢・抱負・今後の推進方向

町内の古民家を活動拠点に「物を作り出す」環境を整えていきたい。

お金を出せば何でも買える時代だからこそ、ものを作る楽しさや苦労、そこから生まれる達成感を得られるような活動をしたい。

地域に根ざした活動にするため、幅広い年齢層の参加者・協力者を増やしていきたい。



古民家にてエレクトーンのクリスマスミニコンサート



ステンドグラス
絵画制作



マイ箸の制作

団体名：いずし五感倶楽部

代表者氏名：前裕 里江

事務所の所在地：豊岡市出石町材木49

電話：0796-20-5430

FAX：0796-20-5430

ノウハウ・コツ

①人材養成

各自が向上できる場を設定

何か一つ課題を決め、それについて各自が家で考えてきたものを発表する場を必ず設けています。なぜ、どうしてそうしたのかをメンバー全員の前で発表することで自信が付き、お互いに刺激し合える活動となります。

③活動場所

活動拠点を確保し、無理なく活動できるように

今まで安定した活動場所が無く、毎回場所を変えての活動でした。個人がまちの活性化に使ってほしいと豊岡市に寄付した古民家を昨年5月から借りられることになりました。

活動場所を確保することで無理のない活動ができるようになりました。活動日や集合時間の大体は決まっていますが、厳守ではないので、各自が自分のペースで活動できます。また、戸建てなので、子どもの声や動きに常に目を配る必要がなくなり、余裕ができました。みんなで少しずつ居心地のよい空間に模様替えしつつあり、ここでみんなに会い、切磋琢磨できることを楽しく感じます。

②活動資金

フリーマーケットで一石三鳥

古民家の庭に苗木があったのですが、邪魔になるので、おしゃれに包装し、玄関脇のガレージでディスプレイして売ったところ、とてもよく売れました。不用となった食器も少しずつきれいに並べて販売するとよく売れます。収益はお茶菓子代程度にはなりますし、いろいろな人がフリーマーケットを見に来るようになり、当会の方への人の出入りが増えました。

⑥ネットワークづくり

地域のイベントに参加

私たちの目的の一つである「ふるさとを愛する心を育てる」活動の一つとして、昨年、地域で行われる盆踊り仮装大会に親子で参加することになりました。今まで盆踊りといえば見ている側だったメンバーがほとんどでした。地域のイベントに参加する機会を持つことで他団体を知り、関わりを持つことができました。

「千と千尋の神隠し」をテーマに仮装の衣装をそれぞれが製作したのですが、よくできていると高い評価を得、いろいろな団体から貸し出しをお願いされ、地域に当会の活動をPRするよい機会となりました。



「千と千尋の神隠し」仮装



古民家にてフリーマーケットを実施

ひとことメッセージ

心から楽しいと思える何かをしてみたいと思っている方、楽しい時間を仲間と共有してみたいと思っている方、ぜひこの活動に参加してみませんか？

農業をしている女性の視点を活かした食農教育

活動の概要

食育基本法が制定され、兵庫県でも食の安全安心に関する条例が施行されました。今後、農業者に食農体験教育の受け入れ要望が増えると予想されますが、受け入れグループや農業者のこれまでの取り組みでは、必要経費と参加費のアンバランスによるコスト意識の欠落や企画の貧弱さから継続性が危ぶまれます。農業者の高齢化も深刻です。そこで、養父市生活研究グループ連絡協議会のメンバーのうち、食育に関心のある女性約20名で“わくわく食農くらぶ”を立ち上げ、食と農を結ぶ食農教育をしたいとチーム活動をしております。その活動は①体験メニュー、加工品、郷土料理の体系整備 ②食育インストラクターとしての基礎知識習得・スキルアップ ③メンバーがそれぞれの地域で行っている食農教育活動の情報交換 ④養父市で体験可能なプログラムを公開し、広く食農体験受講者を募る、など多岐にわたります。

今年度は、保育所、幼児センター、小学校、中学校、高等学校などと連携を図り、教育現場での食育の現状を知り、私達農業者が担える部分を提案します。

成果

指導経験の豊富なメンバーの助言を得ながら、他のメンバーも一定レベルで対応できるようになり、地域の技術として広く普及しています。

地域の課題をメンバー全員で共有し、よりよい方向に進むための方策を考える機会を得ました。

メンバーが実践している体験メニューを取りまとめ、養父市で体験できるメニュー一覧表が作成できました。



養父市食育指導研究会

課題

費用面を含めて、メンバーのモチベーションをいかに維持するか。
メンバーがめざす食農教育の方向を定めきれていない。

夢・抱負・今後の推進方向

行き当たりばったりの食育ではなく、地域に根ざした活動を展開したい。

- ①地域の小学校の食育実施計画に深く関わり、地域の農業、農産加工、郷土料理など地域特性を取り入れた食農教育活動の実践
- ②食育は“生きる力を育むための必要なスキル”であるとの認識を高め、“読み、書き、そろばん、食育”を広く普及
- ③ボランティアではなく、食と農の専門家として食農教育を実践

団体名：養父市生活研究グループ連絡協議会—わくわく食農くらぶ

代表者氏名：チームリーダー 大封 香代子

事務所の所在地：兵庫県養父市建屋488

電話：079-666-0085 FAX：079-666-0724

E-mail：koumeya@fureai-net.tv

ノウハウ・コツ

①人材養成

表舞台は若い人に！

プレゼンテーション、実績報告などの発表は一番の若手にしてもらいましょう。人前で話すことによって、自分たちのやっている活動の内容がよく把握できます。

また、うまくできたときの達成感は必ず本人の自信につながります。

ただし、困ったときのフォローは忘れずに。いつでも助けるよといってくれる人がいると安心して取り組んでくれます。

②活動資金

助成金は活動が軌道に乗るまでの運転資金と考えよう

金の切れ目が活動の切れ目にならないように注意！助成金は活動が軌道に乗るまでの運転資金と考えましょう。助成を受ける期間を自分たちの活動レベルに合わせて自ら設定し、最終的には助成金がなくても事業が円滑に運営できるようにスタッフの育成や備品等の整備、企画力の強化を図るべきです。

助成金は地域づくり団体が経営的に独り立ちできるまでの期間、資金的に応援してもらおうものと考えて、上手に活用しましょう。

⑥ネットワークづくり

円滑な活動のために関係機関との情報交換

学校、教育委員会、市役所、県の農林水産事務所、農業改良普及センター、JA等とまめに情報交換しております。それぞれの立場で協力体制も予算も違いますので、密な情報交換は円滑な活動につながります。受け入れ人数、費用、実施時期（回数）などを整理した、体験メニューの一覧表を作成し一般公開するとともに、教育委員会や商工観光に積極的に働きかけています。



幼児センター職員先生とメンバーとの意見交換会



グランメール現地研修会

ひとことメッセージ

早めの計画・メンバーへの活動の正確な周知が成功させるコツです。3月末には日程も含め、次年度の計画を立てましょう。計画がしっかりしていると忙しい日々にも振り回されずにすみませす。

また、活動の実績報告も速やかに。事業が終了するごとに会計、実績をまとめておくと、最終報告のときに慌てることはありません。報告書提出先の事務局への印象もよいです。

海の活動で思い出づくり！

活動の概要

当会は、兵庫県青年洋上大学（9日間）に参加した社会人（大学生を含む）らが、参加をきっかけに地域に根ざした若者のリーダーを育成し、国際理解、青少年の健全育成ならびに地域貢献を行うことを目的に昭和47年に設置されました。小学生向けのキャンプやウォークラリー、ボランティア活動など、本部を中心に県全体で活動したり、各地区で特色ある活動を行ったりしています。

淡路地区同窓会では、県同窓会と連携し、淡路島で県内の小学生を集め、2泊3日の「サバイバルキャンプ2009」を開催しました。このような海のキャンプは、海で行うために危険性が高い、指導できる講師がほとんどいない、ノウハウがない、船など機材の確保が難しいなどの理由から、珍しいもので、定員小学生30人に対し、100人を超える応募がありました。

成果

ふれあいの祭典の出店など、様々な同窓会活動を通じて、普段知り合わない人や多様な考え方とふれあえる機会になっています。何かやってみたいという気持ちをだれかが表明すると、何人かが集まってそれを実現する団体になっていると思います。

課題

洋上大学淡路地区同窓会には約500人の登録がありますが、熱心に活動しているメンバーは一部で、いかにたくさんの会員に関わってもらえるかが課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

海で思いっきり遊んだことのない子どもが多い昨今、海の風の香りにワクワクする子どもたちを一人でも多く育てたいと考えています。子どもたちも大人も海での活動で元気になって、きれいな海を守りたいと思えるような活動を続けていきたいと思っています。



団体名：兵庫県青年洋上大学淡路地区同窓会

代表者氏名：会長 藤本佳幸

事務所の所在地：兵庫県南あわじ市八木新庄31-10

電話：090-2388-9590

FAX：0799-38-4838

E-mail：awaji-tamanegi21@domoco.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

人と人のつながりを大事に！

活動に関して人から頼まれたら、絶対にイヤと言わないようにしています。

平成20年11月に開催された『ふれあいの祭典』に「何か出してみないか」と声をかけられて参加しましたが、普段知ることのできなかつた団体の活動を知ることができ、次の事業につながる人脈を作る機会となりました。

⑧組織運営

大人も“子どものように”楽しめる活動を！

イベントをするときに参加者に活動の焦点をあてすぎず、スタッフも楽しめる余力を確保することが大事です。

スケジュールが過密だったり、子どもにとって至れり尽くせりだと、スタッフは大変な作業量となり、イベントは焦りと疲労で終わってしまいます。スタッフ自身が“子どものように”楽しめるスケジュール・仕組みづくりを心がけています。今回のように、何か出店を依頼された場合、そのイベントの来客をもてなすのも大事ですが、バルーンアートなどで出店すれば、もしも、お客が来なくても、自分たちでバルーン作品を作って楽しめます。息の長い活動を続けるためには、スタッフを大事にすること、そのためにスタッフ自身が企画を楽しめることが重要な要素だと思います。

⑤広報・情報共有

外部への説明責任を重視し、こまめな情報発信

今回のキャンプでは事前に説明会を開催し、キャンプの趣旨、活動内容、子どもの様子はブログで見られることを伝えておきます。海のキャンプが始まれば、専属のスタッフがブログをこまめに更新し、活動の様子を親にみてもらえるようにしています。キャンプが終了し、子どもたちが帰るときには速報版を持って帰らせます。こうすることで、子どもの様子を知り、親に安心してもらうとともに、キャンプでどのような体験をしたのかを親子で共有し、帰宅後に会話を深めていくことができます。

また、この背景には、子どもが物事に前向きになること、話し合うことで人間関係がつけられることなど、キャンプを通じて子どもたちが学んだことを一過性のものにせず、家庭でも継続して身につけてほしいとの当会の思いがあります。



ひとつことメッセージ

何事も続けることが大事です。どんなにいいことをやっても中止や縮小しては意味がありません。

続けることで新たな可能性が出てきます。そのためにも、PRや外部評価を大事にしていきたいと思えます。